

I. パインブリッジ・スチュワードシップ・エンゲージメント・ポリシー

このスチュワードシップ・エンゲージメント・ポリシーは、パインブリッジが企業、団体、その他の市場参加者と、環境、社会、ガバナンス（ESG）問題についてどのように対話するよう努めるかを定めたものです。このポリシーは、すべてのアセットクラスに適用され、パインブリッジとおお客様の双方に、投資および ESG の両目的を達成することを目指すものです。個々の戦略では、このポリシーを補完する特定のポリシーがある場合があります。

スチュワードシップとエンゲージメント フィロソフィー

スチュワードシップは、お客様の資産を運用する上で不可欠で、また ESG を効果的に取り組みそれが投資先企業と投資家の双方に有益となるようにするためにも重要です。パインブリッジは、投資先企業との継続的でオープンな対話がポジティブな変化と透明性をもたらし、持続可能で長期的な企業価値創造の促進とその過程に参画するための建設的な方法であると考えています。

アクティブ・マネージャーであるパインブリッジは、「スチュワードシップ」を、投資先企業等の価値（経済的、社会的、環境的要素を含む）の維持・向上を実現し、そしてそれによって投資目標を達成するための、個別的または協働的活動と定義しています。スチュワードシップ活動には、発行体との直接的な対話、株主総会での議決権行使、株主提案、取締役会や委員会への参画、インベストメント・チェーンにおけるスチュワードシップ活動に関するサプライヤーとの交渉やモニタリング、政策立案者や基準策定者との対話、そして、スチュワードシップの目標実現に寄与する公的調査や開示への参加等が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

そして、「エンゲージメント」を、企業、政府、業界団体、規制当局等と重大な懸念事項について意義のある対話を行うことにより、投資先企業に変化を促し、市場全体やシステムリスク（気候変動など）に対処すること、と定義しています。投資先企業と行う定期的なコミュニケーションは、継続的なリサーチや投資デューデリジェンスとしてだけでなく、ESG 要素を投資判断に反映することやスチュワードシップ活動につながると考えていますが、そのようなコミュニケーション自体をエンゲージメントとは分類していません。対話のうち、ESG リスクマネジメントを向上させ、それにより下記の分野で投資家に有益な価値をもたらすことを最終的な目的とするものを「エンゲージメント」として分類しています。

エンゲージメント・テーマ

パインブリッジ・インベストメンツは、ESG 要素がおお客様の投資ポートフォリオに投資機会と同時にリスクをもたらす可能性があると考えています。パインブリッジのエンゲージメント・アプローチでは、企業のリスクマネジメント上の課題を改善する可能性に繋がる重要な ESG 要素に焦点を当て、企業価値の向上を経時的にサポートし、また、投資機会発掘のベースにしています。この「重要な ESG 要素」は、企業、セクター、資産クラスによって異なる場合があります。さらに、必要に応じてお客様の投資目的に合ったお客様主導の ESG 要素を投資の意思決定の判断材料に含めることもあります。これらの ESG 要素には以下の事項が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

環境	ソーシャル	ガバナンス
<ul style="list-style-type: none"> 気候変動リスクへの適応と緩和策 自然関連リスクとそのマネジメント ネット・ゼロと脱炭素 水・廃棄物管理 	<ul style="list-style-type: none"> 人権 人的資本 労働力とバリューチェーンの多様性、公平性、インクルージョン リーダーシップとオーバースイト 衛生、安全、ウェルビーイング 	<ul style="list-style-type: none"> コーポレート・ガバナンス 不正腐敗防止 取締役会と経営陣 役員報酬 透明性、リスク、レポートイング ガバナンスとステークホルダー保護

II. アプローチ

パインブリッジ・インベストメントズのエンゲージメントは4段階のプロセスから構成されます。

- 1. 機会の特定。**継続的なボトムアップの ESG 分析とトップダウンの ESG テーマから指摘された最も重要で顕著な課題に基づき、エンゲージメントの機会を特定します。対象証券の保有規模、ESG 課題の重要性または顕著性、およびそれらの課題に対するエクスポージャーに基づいて、エンゲージメントの優先順位を決定します。
- 2. 目標の設定。**エンゲージメント・テーマに沿って、明快で明確そして期限を設け測定可能なエンゲージメント目標を策定し、議論の指針とします。
- 3. 方法の選択。**エンゲージメントの目的に応じて、最適なエンゲージメント手法と計画を定義します。
- 4. 進捗状況の記録。**独自の ESG リサーチ&エンゲージメント・ポータルに、エンゲージメント活動、進捗状況、必要なフォローアップ・アクションを記録しています。これにより、進捗状況の経時的な測定と、全アセットクラス間の情報共有が可能となります。

III. エンゲージメントの進捗状況把握

経時的な進捗状況を把握するために、アセットクラスを横断的にカバーするエンゲージメント・ポータルを活用し、各アセットクラスで個別にまたは協働して実施されたエンゲージメントをモニタリングし、その進捗状況を管理しています。このポータルは、各アセットクラスの独自データベースからサステナビリティ（持続可能性）のテーマに関するエンゲージメント・データを抽出、一元化します。これにより、エンゲージメントを重点テーマ別に分類することが可能なだけでなく、営利的なイニシアチブ、アセットクラス、国、セクター、業界およびアナリスト別に分析することが可能です。また、アセットクラスを横断して保有銘柄を特定し、チーム間で協力して当該企業のリスクマネジメント向上に対する取り組みを行えることは、バリュー創出に寄与しています。このツールは、投資テーマと ESG 分析に有用だけでなく、標準化された指標を比較し、エンゲージメントの実効性を高めるために役立っています。複数のアセットクラスで保有する銘柄がある場合、各アセットクラスの投資チームはエンゲージメント・プロセスを通じて知る投資先企業の情報と分析を共有します。

IV. スチュワードシップとエンゲージメントの方法

エンゲージメントの目的に応じて、スチュワードシップとエンゲージメント活動は、以下のいずれかまたはすべての方法で行われます：

- **投資先企業等との口頭または書面によるコミュニケーション。**電話、電子メール、ビデオ通話、またはその他の方法での正式なコミュニケーション。
- **対面ミーティング。**パインブリッジのチームは、エンゲージメント・テーマに基づき、投資先企業等と様々なミーティングを開催し、エンゲージメント・テーマに沿ってパインブリッジの見解や懸念事項について話し合います。
- **議決権行使。** 議決権を効果的に行使するため、議決権行使に関する方針を定めています。その方針には上場会社の株式投資についての議決権行使ガイドラインが含まれます。不動産やプライベート・エクイティなど他のアセットクラスでも議決権行使を伴う場合があり、各アセットクラスのポリシーで詳細なガイダンスを定めています。
- **協働的なエンゲージメント。** アクティブ・マネージャーとして、ESG 関連リスクを軽減し、ベストプラクティスを推進するため、同業他社や業界パートナーと協力します。

スチュワードシップとエンゲージメントの方法と頻度は、資産クラスごとに異なる場合があり、各アセットクラス別のポリシーにその詳細を定めています。

V. エスカレーション・プロセス

パインブリッジは、投資先企業等との建設的なエンゲージメントを信条としています。投資先企業が目標とする潜在的な ESG リスクの軽減と潜在的な機会の特定を実現できるようサポートしています。一方で、投資先企業等が、パインブリッジが示した期待値やパインブリッジとパインブリッジの顧客が懸念する問題の改善要求に対して適時適切な対応が行われない場合、議案の賛成/反対の公表、反対の議決権行使、投資ポジションの再評価など、エスカレーション方法を検討することがあります。

VI. 利益相反の管理

顧客の利益に重大なリスクをもたらす可能性のある既存および潜在的な利益相反を特定した上で、これを回避または管理するためにあらゆる適切な措置を講じています。

VII. レビューとコミュニケーション

パインブリッジのアクティブ運用の理念は、ポリシーの見直し、プロセスの保証、その有効性の評価等を含むパインブリッジのあらゆる面に反映されています。パインブリッジは、スチュワードシップおよびエンゲージメントポリシーを年次で見直すよう努めています。

(2024 年 9 月)